

●月桂樹の大木 勝利を意味すといはる、月桂樹の大木は、銀杏樹と相對するところであり、以前には、この附近に日本式温室ありしも、今はなし。

●皇太子殿下御手植 園の中央部に於て、銀杏樹前の中央大路を數十歩のところであり、赤松、公孫樹、イホヒヒバ、高野槇、及百合樹の五株にして、明治二十三年十一月三十日、殿下御春秋十ニ歳にならせ賜ひしをり栽植せられたるもの、今は、見あぐるばかり勢よく繁茂せり。

●肉桂林 御手植樹木の北にあり、周圍に竹柵をめぐらす、珍らしき大木なり。

●外國樹木 常盤木、松柏、雜木、類はいづれも、園の北西部にあり。

●崖地 是南方は寒帶雜木にして北は溫帶雜木なり。

●庭園 園の奥に於て崖下より崖にかけて築造したるものなり。往昔の白山御殿林泉の遺址なりと傳へらる。巨岩怪石、奇樹名木、低きより高きに連なりて錯綜し、その景趣の佳なる都下名園の一たり。崖下は、一大池にして橋を架し飛石を設け、蓮、河骨、草菜、睡蓮等の水草を植え、大鯉魚を放つ、池の周圍の平地崖丘には、紅葉山、梅林、瀑布、藤棚、萩の植込、等あり、又花菖蒲もあり、四時の眺めほとんど他くことを知らざる概あり。

●茶店 池畔にありて、賣品は前と同じ、前のを銀杏の茶屋と稱さば、これを泉水の茶屋とも唱

ふべきか、共に質素にして、猥りに利を貪ることなし。

●集會所 池畔にあり、諸學術の會合等に用ゐらる。

●免池 池畔を正門方向にゆくこと少許にして、崖下老樹枝を交ふる幽邃のところ池あり、上方及四方に銅線網を張りて、中に免、鴛鴦、及び龜を放つ。

●竹林 免池より南に老樹の下をすぐれば池あり、池のほとりは竹林にして、數十種の竹を植う。

以上は眞に梗概に過ぎず、凡そこの園に栽培するところの植物は、その數三千餘種にして、一草一木毎に、札をたて、學名、種名等を記載しあり、加ふるに、園内の手入よく届きて、瀟灑閑雅の趣深く、他の公園などの如く醉漢狡童などの惡戯喧擾をなすこともなければ、散歩排齋の園としては市内の第一流なるべし。

●貝塚 小石川植物園及氷川附近は、一帯の貝塚なり、貝塚は、往昔コロボツクルと稱する人種の住居せしことを證する遺跡にして、先年人類學に有名なる理學博士坪井正五郎氏は、この邊にて土器數多を得られたることあり。

●雞ヶ聲窪 本郷區駒込曙町と小石川區原町との間に低地あり、俚俗これを雞聲ヶ窪といふ地名の由來は、左の傳説によるものなり。

江戸砂子に曰 雞聲ヶ窪、駒込片町の西、むかし土井大炊頭利勝のやしきの邊、夜ごとに雞の聲あり、怪みてその聲をしたひ、そのところを求むるに、利勝の邸の中の地中に聲あり、うがち見るに金銀の雞を掘りいだすより、かく名づくといふ。

○雞聲ヶ井 この名を有するもの現下二あり。

其一 東洋大學構内運動場にあるもの、今は、該校の雑水に使用せられたり。

其二 小石川原町十二番地酒井伯爵所有邸外貨地にあり、飲料水として使用したり。

この二井は、共に金銀雞を掘出したる遺跡なりと稱せらるゝも、傳説既に眞を置き難ければ、二井の孰れか眞なるかも亦た問ふに及ぶまじ、たゞ小説的傳説として茶人の茶話たるに過ぎざらんか。

○酒井伯爵の庭園

原町十二番地酒井伯爵の邸は、元和二年幕府より賜りしものにして、林泉の美に富むと共に、園藝場ありて、珍草名花の栽培を以て世に知らる。就中、温室はその設計最も完整し、伯爵忠興氏自らこれを經營せり。

培養温室。戦捷紀念温室。花壇。

などは、共に人目を驚かすに足り、林泉の結構に於ては殆ど人工天然の巧をつくせるものなり。

池泉、集會所、蒲池、苗圃、靈祠、梅林、甲冑塚、第六天祠、山伏椈、袖曳石、小町燈籠。

などの名勝古蹟も亦た殆ど人をして轉眼に違なからしむ、今其の中の二三に就て由來を記するに、

甲冑塚 邸の西部古銀杏樹の下にあり、圓石に甲冑塚と篆刻す、其の半は埋没せり、傍に碑をた

て、元祿十子歳、祈願成就處、と刻す、甲冑を埋めて、何事をか祈願せしものなりといふ。

山伏椈 庭園の西にあり、樹幹に空洞ありて、中に山伏の栖息したることありとの傳説あり、但

し今の椈は後年に植えつきしものにて、空洞はなし。

袖曳石 植物園と林泉との間に通ふ路傍にあり、沓の自然石なり。傳へいふこの石深夜通行す

る者の袖を曳き、しばし怪異のことありしと、邸内七不思議の一に數へらる。

小町燈籠 文治年間藩の老臣河合道臣、京都小町寺の燈籠の古雅なるを愛し、藩主に説きて千金

に購はしめたるものにて、元これを石濱の邸に置き、後これをこの邸に移したるなりといふ。

其他一木一草、片石斷岩、おのゝ記するに違あらず、一般公衆の縦覽を許さるも、日曜大祭日

には、紹介者あるときは、入園觀覽を許すといふ。

○聖岡菴址

應永年中宗慶寺の丁譽上人、氷川社頭の幽邃を愛し、菴を結んで聖岡菴となづけ、閑居自適したる址なり、新編江戸志に曰く、

聖岡菴 本社より右の方、往古丁譽上人卜居の菴室なり、今は氷川の御供所として社僧住す、聖

岡は即ち丁譽上人の名なり。

と、本社とあるは、氷川神社のことなり。

○元氷川社址

原町百三十番地岡田醫院の玄關側にある一小祠は、元氷川社の址を示したるものなりといふ。明治以前には幕臣某の邸地にして、永代鋤を入れず、古木荆棘生ひ茂りて、中に一小祠あり世の畏懼するところなりしが、明治以後擅に其神木を伐採し、小祠を取毀したりしに、主人は忽ち發狂して、遂に他に轉ずるに至りたり、爾來妖怪屋敷と呼ばれ、住む人なかりしと傳へらる。岡田氏にいたり稻荷としてこれを祭り、當年の老神木は、なほ繁茂し居れりとの事なり。

○氷川八景

氷川神社々頭に八景の稱あり、元文年間雅人の選びしところなりといふ。

氷川森雨、橋上行客、龍池神祠、極樂清井、護國晚鐘、野田夕照、舟繫松月、富士晴雪。

○氷川田圃

安政丁巳歲改の繪圖にも、氷川下町の邊は、ことごとく田と印しありて、御樂園の南、大雲寺門前、及び舊橋戸町に、僅かの町家ありしのみ、其他は總て水田にして、中に小石川の流るゝあり、小石川志料にのせたる氷川八景詩歌序に曰く、

江城の北、一神祠有り、氷川大明神と稱し奉る、この地や、幽邃にして明潔、一たび眺望すれば前野渺々として夕の鶴は閑を卜し、長橋悠悠として行客袖を連ぬ、富士峯の雪を留め、護國寺の

鐘を傳ふる、耳目に接するの景は、枚舉するに遑あらず云々。(原漢文)

とあり、近年までも猶一面の田圃なりしに、今や、水田は埋められて人家櫛比し、田畦跡なく、幾多大小の工場たちならびて、煤烟のみ黒くまひのぼる、滄桑の變とはかくの如きをいふならんか。

○鶴場の址

元祿の頃、小石川氷川田圃の邊に鶴場ありて、鶴を放飼せりといふ、小石川志料に、左の如く志せり。

江戸志云 舊事名話云、元祿の頃御成の折から、御駕籠の先に、鶴一羽舞ひ下り來りけるを、是を佳瑞なりと釣命ありて捕へられ、放し飼になさせらる、此鶴當所と早稲田邊と二箇所より外に行くことなし、日々此鶴の居所を言上する役人あり、多くは、こゝに鶴居ける故に鶴場と云。

然しこの説は、較々捏造の嫌あり、小石川志料の著者は小日向切支丹同心小山田彌一郎といへるもの、記したる文書を一覽したりとて記載したる文中に、

貞享三年寅年三月十四日小石川御殿御成の時、氷川へ鶴五つ御放し被遊候に付、御頭へ注進す、右鶴組屋敷内に下り候は、御注進可申上旨組中へ觸候、同四年三月二十二日小石川村へ鶴雁御放し被成候と云々。

とあり、この説確なるに似たり、幕府時代には、いろいろのことありしと見えたり。

○極樂水 極樂水てふ名稱は、久堅町の一部を稱する小字となり、吹上坂の下、宗慶寺附近をいふ。そは此處に極樂水といへる名高き井水ありしに因るものなり。宗慶寺は、有名なる三日月上人了譽の開基にして、井は、その境内にあり、了譽上人行業記に曰く、

應永二十二 二月武江に適く、時に七十五、勝地を小石川の畔に得て、草廬を葺いて居る、側に岩井あり、清泉湧く。(原文漢文)

とあり、極樂水といへるは俗稱にて、本名は吉水なり、吉水は京都に於ける法然上人の舊蹟なれば同じ淨土宗門の了譽上人は、たまくこの地に清泉の湧出するより、これに吉水の名をつけられたるものなり、名所記に曰く、

了譽上人吉水の寺におはし、時、龍女來て弘法の深旨をもとむ、上人即相無相事理俱頓の要法をしめす、龍女即語無生の理にかなひ、菩薩戒の血脈をうけ、其の報恩として此名水を涌し奉れりとあるも、前掲行業記によれば、井水は、昔より湧きいたるものと見ゆ、龍女云々の話は、恐く後人の假作話なるべし。この極樂水の井は、元松平播磨守の屋敷内にありて、宗慶寺内にはなきとの説あるも、其の以前に、播磨守屋敷は、宗慶寺境内の一部分なりしを、水戸家にて本所にて八千坪の代地を出して、宗慶寺内の八千坪と交代したるものなりとの舊記あるを以て、了譽上人の時には

極樂水は、その境内なりしといふも、決して誤りたる説にはあらず。

○吹上 こも亦た竹早町一部分及び其附近の小地名なりし。江戸切繪圖には、現今の竹早町先の大通りに、小石川大塚吹上とあり、武江圖説には、松平大學頭屋敷より松平播磨守屋敷までの邊までをいふと見えたり。大學頭屋敷は、今の高等師範學校所在地なれば、この附近より久堅町七十四番地までを古昔吹上といひしなるべし。これによつて智香寺内に吹上稻荷ありしこと、又久堅町七十四番地側を極樂水へ下る坂を吹上坂といふことも、共に其原づくところを推知し得べし。

○お福の井 久堅町七十四番地にあり。武江圖説によれば、此井を掘る時大黒天の像出でしにより、御福の井と稱したりとのことなり。舊幕時代に、松平頼文公深くこの井水を愛し、水邊に亭を築き、茶を煮て老後の樂としたり、當時其亭にかゝげたる二條關白の親筆「吉泉亭」の額は、今も松平侯家に藏しありといふ。

或は、この井より出でたる大黒天は、即ち今の傳通院門前福聚院の本尊なりといひ、その像の面貌お福なれば、お福の井と稱し、轉じて五福の井となりたりとして、この井を現に五福の井と呼ぶと稱するも、五福はつまり御福なるべく、この一説や、疑ふべし。

○札の辻 昔中山道の驛路にして、昔は高札場ありたりと云ふ、府内備考に曰く、

白山札の辻 白山前町の内なり。

○火の番町 小石川志料によれば、火の番町は、七軒町の西なる僅ばかりの處なりとぞ、元祿年間にこの地に、火の番役の武家多くこの地に住したるよりこの名あり。現今の六番地、七番地附近なりといへり。

○猫又橋 氷川下町より丸山町に渡る橋にて石橋なり。詳細は、橋の條下を見よ。

○むれ野 或は「むれる野」といふ、漢字にて「無禮野」と書きたるもあり。新編江戸志には御簞笥町（今は竹早町に編入せらる）の邊より大塚、板橋の境あたりを、すべて往古は無禮野と云ふ、としるしたり。以てこの附近一帯が渺茫たる武藏野の一部をなしたることを知るべし。

○切支丹屋敷趾 切支丹屋敷趾は、茗荷谷町にあり、現今切支丹坂と唱ふる坂を下りて、真直に向ひの高地にのぼる無名坂をのぼりたる邊にて、九十番地より九十三番地に至るところ即ちそれなりといふ。

この無名坂の上は、昔切支丹信者を拘禁したる牢獄にして、宗門奉行井上筑後守の下屋敷なりしが寛永年間にこゝに牢獄を構へ、最初は規模も廣大なりしが、切支丹宗門の衰ふると共に、次第に縮小して、寛政四年に及び廢止したり。府内備考に

切支丹屋敷趾は淺利坂の北の方なり、構内およそ表の通四十八間餘は北西の方へかけいり、北の方方は六十間餘、南方八十間餘、西の奥へいりては三十八間餘といへり、むかしは特に廣かりしを元祿十四辛巳二月二十五日、北の方若干の地を御家人の宅地に賜へり、今七軒屋敷といふ、又寶永の初南の方をも減せらる、今の淺利坂の邊なり、云々。

とあるを以て、其の大體を想像すべし。舊記を綜合するに、寛永年中この牢獄内に、シシリア島ハレルモの同伴天連シヨセイフ、カウコを囚禁し、寛永中ウルマ同伴天連ヨアンバツテイヌタシロウチ及び其徒長助夫妻を囚禁したりといへり。右の中シヨセイフカウコは、後改宗して日本の教を奉じ、耶蘇教詮議の案内者として、この屋敷に詰り居り、姓名を賜ふて岡本三右衛門と稱したりとのことなり、この附近に、切支丹屋敷に關係ある古蹟など多くあり、左に列記す。

●八兵衛石 往古切支丹屋敷の門前にあたるところにあり、獄門橋を渡りて路傍にありき。昔八兵衛といふもの切支丹宗門を信じ、刑死せられたるを埋めたるもの、表なりとか。新編江戸志に、「八兵衛石、往古切支丹屋敷門前にあり、今は屋敷内にあり、その邊に艸生することなし、鳥獸とまることなし、金鼓の音など此石にひやくとなり」とあるは、やゝ荒誕の記事なれども以て此石の由來を想像するに足らん。

●獄門橋 今のいふところ切支丹坂を下りて、向ふへ高臺へのぼる無名坂の下にある橋なり。恐ろしき牢獄の門に通ずる橋なりしより、この名ありしならんも、現今はこれを唱ふるもの稀なり。

●山莊の碑 切支丹宗門衰滅と共に、牢獄も廢され、文化十二年この地を毛利讃岐守政時に賜ひて別邸となしたるとき、政時はその遺蹟に「山莊の碑」を建てたり、世にこれを朝妻櫻の碑といひしとかや、惜しむべし今は無し。(墳墓石碑の條下を見よ)

切支丹屠敗は寛永二十年より寛政四年に至るまで、百五十餘年間つゞきたり、寛政四年は今を隔ること約百二十年に垂んとす、桑田海となるてふ諺にもれず、今日は、その形迹毫も見らるべからずと雖、毛利政時がこの地を拜領したる當時は、今の第六天町より茗荷谷町邊に刑死者の遺骨折々露出し、頗る慘憺たる光景を呈したりといへり。

○藤寺 茗荷谷傳名寺の別稱なり、慶安三寅年閏十月廿七日時の將軍家光公牛込高田邊放養御成の時この寺に立寄り御休憩あり、庭一面に廣がれる藤の老木を上覽ありて、これこそ藤寺よと仰せられたるより、この稱はじまりたりと傳ふ。寺に掲げたる藤寺の扁額は、沈宋亭といへる唐人の揮毫なりとのことなり。現今の藤は、昔のものにあらずれども、なほ寺稱をむなしうせざる觀あり

○波切不動 大塚仲町十六番地にあり、毎年九月二十八日に祭禮を執行す。その縁起に諸説

あり、參考の爲に左に掲ぐ、

南向茶話によれば、この邊に池あり、雨降らんとする時は、霧立ちのぼり、又巢鴨邊よりも霧たちて、互に並びあふより並霧といひしなり、又里諺に、昔此處に火災ありしに、本尊關口の川に入りて火を除給ひしより波切不動尊と云より、とあり。

小石川志料は、右の茶話の説を排して本傳寺の縁起書を掲げたり、之を略記すれば、昔宗祖伊勢のある川にて洪水に止められたるに、一異人來りて、水波を切つて之を導きたり、其日、宗祖程近き小幡の山寺にいたり不動尊を拜するに渾身ぬれてありしかば、前の異人は即ちその不動尊なるを悟りて、驚嘆一方ならざりしといふ。宗祖の本國に赴かるゝや、山寺の主僧は、親ら不動尊を負ひ其跡をしたひ、たま／＼この地に來りてさる農家に一宿せしに、翌朝尊像重きこと磐石の如くなりしより、終にこゝに安置し奉りしといへり、又た其後に、太田某この不動尊を尊信したるが、或時三浦渡海にのぞみ、風浪暴に起りて大に困難したりしかば、この不動尊を祈念したるに、尊體忽ち船の舳頭にあらはれて、波を切り拂ひたまひたるより、波切不動と唱へ奉るに至れりとかいふ。

其他、太田道灌が相圖の狼煙をあぐる爲に築きたる塚の地なりといひ、古の奥羽街道の一里塚な

りといひ、種々の傳説口碑あるも、いづれを確とも判断し難し。

舊き圃によれば、石階の前に鳥居あり、前に「なみきりふどう」と刻したる石標あり、西に面して木戸を設け、隣地通玄院の石崖にそふて木戸番所ある等、現今とは大に趣きを異にせり。

○高田御殿址 寛永年中徳川氏が別館を設けしところにて、一に北薬園と稱し、現今の植物園のところを在りし薬園も、一度はこゝに置かれたることは、その條下に記載したるとほりなり、今の護國寺の在るところは、即ちその地なり。

○星谷ノ井 江戸名所圖繪によれば、大塚坂下町の内、護國寺の西方なる谷にありたりといふも、今は、その故蹟も詳ならざるを遺憾す。

○大塚御厩址(俗にいふ儒者捨場) 大塚坂下町に在り、波切不動前の坂を護國寺門前の方へ下り、左に巢鴨監獄の方に向ふ道路を行くこと約一町許の左方高地半腹にあり、儒者の葬地を以て知らる。(詳細は、墳墓の條下を見よ)

○豊島岡 小石川區の北西隅に蟠れる丘阜にして、元權現山と稱したるを、明治六年九月豊島岡と改め、皇族の御陵地とせらる。

稚瑞照彦命(今上天皇第一皇子、明治六年九月薨す)。稚高例 姬命(同第一皇女、明治六年十一

月薨)。薰子内親王(同第二皇女、梅宮、明治九年六月薨)。三品敬仁親王(同第二皇子、建宮、

明治十一年七月薨)。昭子内親王(同第三皇女、滋宮、明治十六年九月薨)。皇子内親王(同第四

皇女、増宮、明治十六年九月薨)。静子内親王(同第五皇女、久宮、明治二十年四月薨)。猷仁親

王(同第四皇子、照宮、明治二十一年十二月薨)。輝仁親王(同第五皇子、滿宮、明二十七年八月

薨)。多喜子内親王(同第十皇女、貞宮、明治三十二年二月薨)。

の各殿下を始め

有栖川宮熾仁親王 同裁仁親王 北白川宮能久親王 小松宮彰仁親王 山階宮晃親王 同菊麿王

中山二位局。

等高貴の御墳墓及各宮家の御墓所あり。

○鳥橋 橋とは名のみにて、場所は金剛寺坂の上にあり、元祿の頃は此處に幕府の御用邸あり

その頃江戸中の鴛鳥をとらへて此の邸におき、時々遊き鳥々へ放たれたることあるにより、この名

を得たりと傳ふ。元祿の頃は、五代將軍綱吉の治世にて、有名なる殺生禁斷の嚴令を布かれたる時

代なれば、自然斯様なることもありしならんか。改撰江戸志に、或人の日記なりとて抄出したる文

中に

三宅島などへ鷺鳥を放つべき命を承り、御徒目付赴きしこと度々なり、この所に今も竹尾傳十郎といへる人あり、かれが先祖は元祿のころそのあづかりをうけたまはりしものにて、御鳥醫といへり云々。

とあるは、この所をいへるなり、現今は、橋らしきものを見うけざれど、右の江戸志には、此處に今もいさゝかの橋あり、と記しあり。

◎紫の井 武島町二十七番地にあり、海軍大佐福島春良氏の邸前にあたる。武島町附近は、昔より水質よきを以て知られたるが、就中この井水は、清冽ことにすぐれたりといふ。口碑によれば昔太田道灌この井を穿ち、其の水質の佳良なるを愛して、試に紫色を染むるに用ゐしに、其の色絶佳なりしより、紫泉の名をつけ、その流るゝ川を紫川といひたりとか。維新前は幕府の槍鍛冶川井久幸こゝに住し、明治にいたりて、三遊亭圓朝深くこの井を所望せしも果さず、後轉じて有名なる兆民居士中江篤介氏の住所となり、同氏終焉の後に現所有主福島氏の手に移したる由にて、布置格好舊時の觀をとゞむと云ふ。

◎久世山 小日向臺西南方の界をせなる丘阜にして、眼下に關口附近を控ふ。この地は、久世出雲守の下屋敷の址にして、小日向水道町百〇八番地の全部なり。面積甚だ廣くして東は小日向水

道町、北は小日向臺町三丁目、南は小日向水道町及櫻木町の低地より音羽九丁目に臨む。この久世氏は舊下總關宿の城主にして、四萬八千石の諸侯なりしが、この下屋敷は、家屋を取拂ひし後、そのまゝ放置しあるを以て、雜草生ひ茂りて兒童少年等に、倔強の運動場となれり。崖にのぞめるところは、老松蔭をなして、夏日は、涼風常に袂をひるがへし清爽いふべからず、眺望殊によく、牛込區は勿論、麴町、四谷、赤坂等各區より、遠く富士の高嶺をも望むべく、又本區の一名區と謂ふべし。

◎音羽町遊女屋址 音羽町は、昔は護國寺領にして、徳川氏の女官音羽に給ひしより此名ありといふ。文化天保の頃は、この地に遊廓ありて非常の雜間を極めたりしが、後これを禁止したり舊記拾葉集に左の記事あり。

享保八年卯五月護國寺門前音羽町に遊女差置間敷旨前々より御制禁の處に今以て不相止遊女差置既頃日隠し遊女度々召捕へ候左様には有之間敷儀に候依之門前町屋不殘被召上取拂に相成候。以て當時の情況を想像するを得べし。

◎大洗堰 舊神田上水の江戸川より岐るゝところは、堅固なる石垣を積んで流を堰きとめあり水道の餘水は、その石垣の上部に通せる水路を奔りて、直に二條の飛瀑となつて濁きくだる。その





下流には、老樹空を掩ひ、白砂瀨をなし、風景頗るよ  
ろしく、夏時は最も避暑に宜し。舊水道の廢止後は、  
水量大に増して、瀑布の壯觀も一層を加へたり。

○關口芭蕉庵 關口にあり、現今田中子爵の邸  
内となる。昔上水開道の頃有名なる俳僧正風の祖松尾  
芭蕉翁しばく此地に遊ばれたることあり、後世その  
舊蹟を失はんとを憂ひ、翁の遺風を慕へる白鬼園宗  
瑞、馬光などの俳僧師等、この地は翁の遺體を葬りし  
江州瀨田の義仲寺附近の景色に似たるを以て、翁の遺  
吟の短冊、五月雨に隠れぬものよ瀨田の橋、といへる  
を埋めて塚に築き、五月雨塚と號けたりとかいへり、  
庵は、江戸川上流に臨める斷崖の中腹、老松の下に、  
翁偈たる樹林に圍まれてあり、幽邃の趣真に賞するに  
堪へたり。

○駒留橋

關口町より關口臺町に渡る橋なり、府内備考には  
古へ駒込に馬市ありし時、馬逸して此處に至りしを以て名く。

とあり、風土記には、これを駒塚橋とし  
古へ橋側に老松あり、行人馬を繋ぎしにより、駒繫橋といひ、後繋ぎを誤まりて塚に作る。  
としたり、孰れが真なるか詳ならず。

○東豊山(目白不動)

本區にある三岡脈の中、西南にある高田臺の末端の丘上にありて、江戸  
川の上流に臨む。眺望特に絶佳にして雪景に於ては、附近これに比すべきものなしと稱す。昔時十  
二景の選あり、大學頭林信言、同林信充、前後に十二景の詩の撰あり、十二景は

豊山曉鐘、北門寒樹、隣寺櫻花、谷口夜雨、瀑布納涼、水田挿秧、日中市塵、芙蓉晴雪、山外春  
樹、赤城晚霞、手渚扇舟、房州新月。

これなり、改撰江戸志は、更に白馬臺十五景を擧げたり、即ち左の如し。

鶉山櫻花、城門綠樹、溪邊流螢、陸田落月、平田香稻、前林紅樹、月中望嶽、江村飛雪、長谷梵  
宇、赤城霞色、高田叢祠、濟松鐘聲、田間一路、巖畔酒壺、堰口水碓。

と、現時に至りては、附近市街田畝の光景又昔日の觀なく、特に、前面なる早稻田邊の水田等は、

變じて熱鬧なる市街となりたれば、右の十二景十五景中に擧げられたるものにして、廢滅に歸したるものも多けれど、尙本區の名勝として東京の各勝地を壓倒するものあり。

○椿山 關口臺町にあり。水神社の地域に八幡宮ありて、之を下の宮と稱し、又は椿山八幡ともいひたりと傳ふ。この地に椿多かりしより此名ありしならん。今はこの名稱は、山縣有朋公の椿山莊の名によりて一層弘く世に知らるゝに至れり、名將軍と名勝と、相まらて本區の爲に一段の光輝を添ふるは目出度きことなり。

○疏儀莊舊地 有名なる和學者北村季吟の別莊なり。目白臺の一區劃にして、往昔はこゝに山之井と稱ふるものありしと傳へらる。本區中、白山御殿町附近と共に時鳥の名所として名を知られたり、されば、李翁吟の遺詠にも

關口てふ所に別莊を求めはへりて

季吟

住みつかぬわがやとのはぬほとゝぎす

もとのあるじを慕ひてや鳴く

とあり、芭蕉庵舊蹟と對して双絶の舊地とすべし。

○鶴龜松 高田老松町侯爵細川家別邸の正門前にある老松なり、その翠蓋偃蹇たる姿の、恰も鶴の舞ひ龜の躍るに似たるより名付けたるものなり、惜しいかな其の一株は近年にいたりて枯死せり。

○鬼子母神出現所 雜司ヶ谷町字清土にあり、傳へいふ昔じ鬼子母神この地に出現したりと、今なほ小社を安置しあり。社前にある井泉は、星の清水となづけ、むかし鬼子母神の出現するや、この井に星の影現れたりと云ひ傳ふ。

○表町の大榎 武江圖説に曰く、俚談に昔此邊奥州街道の由、其時の榎とて今に大木の並木傳通院内にもあり云々。こは、久堅町三百坂について記したる一説なり。又同書に吹上といふ地名のことを記して大學侯館内に奥州街道の跡とて、大木の榎、古松などありといへり。

とあり、この附近に松榎の大木ありしことは、ほゞ察知せらる、表町傳通院門より右に澤藏司稻荷にいたる途上の中央に、一本の大榎あるは、恐くその名殘の一なるべじといふ。

○光圓寺の大銀杏 久堅町光圓寺本堂の南にあり、隣蒼として之を掩ひ、東京市内名木の一なり。武江圖説に

大木銀杏境内にあり、開山植うるところと云。この銀杏は、乳銀杏といふ、廻り二丈有餘、元一本、枝上にて男木女木と分る、諸人この木に願望をなし、しるしありと云。この寺の開山は人皇四十五代聖武天皇の御世、行基菩薩なりといふ、以てその老木なるを察すべし

○法雲寺の椎の木 新編江戸志に、寺傳云、古大木の椎の木あり、元祿年中この邊御成の時、椎の木寺なりと臺命ありしより寺の名とせり、回祿の後、藥のみありて今三四丈となる云々、とあり。

○掃除町の椎の木 同町と戸崎町との間なる崖地に、椎の木ありて、鬱々として道路上に臨めり、これによりて、俚俗このところを椎の木といふ。

### 四季遊覽

○初子 正月始めの子の日、表町傳通院前福聚院三國傳來大黒天詣で賑ふ。

○藪入 正月十六日初音町源覺寺閻魔堂、俗にいふ藪蕪閻魔の境内賑ふ。

○四季の花 白山御殿町理科大學附屬植物園、四季ともに花絶ゆることなく、嚴冬の日、温室内の綠葉美花をめぐるも興あり。

○梅花 牛天神境内、小石川植物園内、共に梅花に名あり。

○櫻花 江戸川の兩岸は、一重八重の櫻花うつくしく、新小金井の稱むなからず、水上船をうかめての眺めは、また一入なり。植物園廣場、傳通院境内、小日向神社境内、等もまた花盛り

○躑躅 音羽護國寺境内のつじ、植物園泉水のほとり。

○菖蒲 植物園に多し。

○摘艸 雜司ヶ谷附近ことに趣あり。

○青葉 氷川神社々頭、目白臺、牛天神境内、その他高地多く樹林多き本區は、到るところに青嵐の景趣に飽くをうべし。

○天神祭り 北野神社、五月二十五日に例祭執行。

○螢 江戸川のほとり、葉櫻のかげに一疋二疋飛ぶもの却てゆかしく、關口あたりやゝ多し。

○四萬六千日 七月初旬、音羽護國寺觀音。

○納涼 江戸川の舟遊び、關口の大洗堰、永川社頭のすゞしき風、目白不動の松聲水聲。

○四手網 大洗堰下流、船河原橋下より市兵衛河岸。

○虫聞き 關口附近、雜司ヶ谷附近。

○觀月 目白墓はことによろし。田圃は今ほ人家に埋められたるも、氷川社頭また適地たり。

○秋祭り 九月十日氷川神社、九月十七日諏訪神社、九月二十一日白山神社。

○紅葉 音羽護國寺、植物園、この二箇所は、ことにすぐれて佳景なり。

○枯野 雜司ヶ谷附近。

○縁日

●福聚院大黒 毎月三日、十九日、及甲子。

●妙足院大日如來 毎月八日、十八日、二十八日。

●白山薬師 毎月八日、十二日。

●蕩蕩閣魔 毎月七日、十六日、二十六日。

●牛天神内太田神社 毎月十四日、三十日、

●護國寺觀音 毎月十七日。

●水道町日朝様 毎月八日。

○寄席 指ヶ谷町 長久亭 ○櫻木町 江戸川亭 ○掃除町 壽亭 ○水道端町 扇亭。

### 墓所、石碑

○寛政三博士の墓 大塚阪下町大塚御厩島にあり、俗に儒者棄場と稱す。三博士とは柴栗山尾藤三州、及び古賀精里をいふ。栗山名は邦彦、字は玄輔、讃岐高松の人なり、幕府に召されて昌平黉の教官となり、學政の改革に大功あり、文化四年を以て歿す。二州名は孝榮、約山と別號し、通稱を良佐といふ、伊豫の人にして、同じく昌平黉の教官たり。文化十年を以て歿す。精里名は撰字は淳風、通稱を源助といふ、佐賀の人にして、同じく昌平黉の教官たり、文化十四年に歿す。

○室鳩巢の墓 寛政三博士と同じく大塚御厩島にあり、鳩巢名は直清、字は師禮、別に滄浪と號し、新助と通稱す。儒學を以て加賀侯に仕へ、後に將軍吉宗の侍講となる。享保十九年を以て歿す。鳩巢の著書中、最も人口に膾炙せるは赤穂義人録にして、大石以下四十七士の名は、これによりて天下に一層重きをなせり。

○岡田寒泉の墓 同じく大塚御厩島にあり、栗山と同じく昌平黉の教官たりしが、文化四年を以て歿したり。寒泉名は恕、字は子強、通稱を清助といひ、江戸の人なり。栗山以下五儒者の墓あるを以て儒者棄場と俗稱せらるゝは、如何にも賢者を敬せざるものなり、數

年以前までは荆棘生ひ茂りて、墓石も判然せぬほどなりしが、近頃にいたりて大に修理せられ、なほ保存祭祀を行ふことなども計畫せられたりといへば、五儒の英魂も地下に笑をふくむことなるべし。

○護國寺境内の墳墓 同寺境内にある諸名士の墳墓は、本堂の右側及後邊には三條實美公

山田顯義伯、中山忠能侯、の墓をはじめとし大隈伯母堂、大審院判事今村和郎氏墓等あり、三條實美卿哀悼碑も亦あり。境内裏手の墓地には、才美を以て知られたる高橋義雄夫人千代子の墓あり

○傳通院境内の墓 傳通院夫人水野氏の墓あり、夫人は水野右衛門大夫忠政の女にて徳川

廣忠公の室となり、徳川初代將軍家康を生みたる人なり。慶長七年八月二十九日逝去、京都智恩院に葬りしが、元和三年江戸小石川に改葬し、寺院を傳通院と改稱したり。

澤宜嘉卿墓 本堂の右にあたる墓地にあり。

女夫妻墓 境内淑徳女學校裏の樹下にあり、小なる堂を設けたり、情死者を合葬したる墓なりともいふ、諸願に効驗ありとて、今も參詣の者絶えず、常に新しき卒塔婆の供せらるゝを見る。

○岡本三右衛門墓 戸崎町無量院境内にあり。寛永二十年の頃、シヨセイフカウロといへる

南蠻人の伴天連來りしを、茗荷谷の切支丹屋敷へ拘禁せしに、彼は、自ら本邦の宗旨に改め、切支

丹宗門詮議の手引をつとめたるより、その頃刑死せられたる岡本三右衛門なるものゝ名跡を賜りて扶持せられたりしが、死してこの無量院に葬りたるなり。

○建部昌興墓 同じく無量院に在り、小石川志料に曰く

傳内又傳右衛門といふ、建部傳内賢文の子なり、十三歳の時父におかれ、外戚井上氏の家に養育されて書を學ぶ、筆勢父に及ばずと雖も、亦世に稱せらる、長束正家、佐野綱正が許に寄食す、

慶長紀元の年、書を以て麾下に召され、右筆の役を奉じ、兼て連枝の方々に書法を興へ奉るゝ。されば世に昌興が流を御家流と云、元和三年御上洛の頃、命を受け、朝廷の規式武家の古實を筆記して献す、明暦元年四月十八日歿す、時に歳七十六。

○瀧澤馬琴の墓 茗荷谷町深光寺にあり、馬琴は有名なる里見八大傳、椿説弓張月、朝夷巡

島記等世に知られたる稗史の著者にして、博覽強記、文章に巧に構想に豊に、本邦に於ける文章の第一流に位する巨人なり。

○山本北山の墓 原町四十番地本念寺にあり、門を入ると右方に

述古山本先生並妃今川氏合葬墓 墓所あり、と誌し傍に累代の墳墓あり。

山本北山、名は信有、字は天祐、北山は其の號なり、奚疑翁、學半堂逸士、孝經樓主人、竹堤隱逸等の數號をなれる。江戸の大儒にして、家世々幕府に仕ふ、文化九年五月十八日六十一歳にて歿す。門人私謚して述古先生といふ。この寺に太田蜀山人の墓あり、其の存生中、本寺に詣りて北山追悼の詩あり曰く

萬卷藏書右腸中 如雲弟子叩空々

非常事業非常氣、△△△△△△△△

われも亦おしつけゆきて昔の下に長き夜すがら語りあかさんと、蜀山のこと次項に詳なり。

○太田南畝の墓 原町本念寺に在り。本堂の背面に、角石長さ約七尺ほどの墓石に、たゞ南畝太田先生之墓の八字を刻す。

南畝名は覃、蜀山人、杏花園、櫻山人、石楠齋等の別號あり、通稱は直二郎、後七左衛門と改む、幕府の士人なり。博覽強記にして詩文に巧に、戯文をよくし狂歌に巧なり、其の滑稽談話の詩文に至りては、人をして抱腹絶倒せしむ。文政六年四月六日七十五歳にて歿す、戯作雜著頗る多し。寺に南畝の遺墨あり、その亡妻の爲に、法華經を寫して納めたるもの、奥書に

文化起元春三月十一日 值亡妻貞徳院妙持日頂忌辰

自寛政戊午至今茲甲子已爲七周矣、書寫妙法蓮華經提婆達多品、以寓追福意、云爾。

杏 花 園

亡妻七周忌有感

不飽糟糠待我巾。悲嘆二十七年春。

一朝臥病歸泉下。七見青苔墓上新。

かぞふれば短かき春のよもづくに根にかへりにし花も七とせ。

この遺品今は無しとかきく、甚た惜しむべし。又たさる人の手向けにもしたる詩歌及び其の序に曰く

月ごとの十九日に物かくことを乞ふものに書きて贈るも晴雲妙閑信女の忌日なればなり。こと

し水無月十九日に、じふくにちといふ五文字を上におきて五つの隙をのぞくへき手向となしぬ

しづやしづ賤の苧環はてしなくなども思ふ夏の日ぐらし。

ふねの中波の上なるうき草のやどりもいつかむとせなるとせ。

くりかへす暦のかすもはたまに近きばかりの手向けとはなる。

にこり江のみかさ増りてすむ人の門邊もむかしわかすなりにき。  
ちかひてしはなもならへす松の葉の枝もかはらず年をふる塚。

甘露門前暑欲燃。 覺雪山上月餅圓。

床頭一部西廂記。 殘夢覺來二十年。

この他に、六十六翁寫之文化十一年、としたる自畫幀一幅ありしといふ。

○辰巳屋惣兵衛の墓 久堅町四十六番地慈照院にあり。墓面には、老人が娘姿をなし、黒

き振袖を着用して舞ひ踊れる形を彫刻しあり、その形すでに尋常にあらず、其由来にいたりては一

層珍とするものあり。

惣兵衛は、小石川傳通院前に茶漬飯の店を開きたるが、その壯年の頃は、任俠を以て世に稱せられ

たり。この惣兵衛は若年の頃より踊りを好み、専ら世人の興をよびて得意したり、山王權現、神

田明神の祭禮などには、必ず賤女に扮して、臺所唐人の學びなど、いろくさまくの可笑しき狂

言振事をして世人を笑はしむるを常とし、群集も之を見んとて騒ぎたちたり、天明の末年にいたり

て始めて狂言神樂といふものを工風し、假面をつけてくさくの踊りをなし、巫女の真似をなして

種々の藝を演じたり、諸侯邸の稻荷祭などにも招かれしが、すべて一錢半文をも受くることなく、

文政四年十月二十四日八十八歳にて歿したり法名を快樂遊仙といふ、同人の肖像に蜀山人の贊あり  
曰く

お祭りと神樂の堂に辰巳屋の枯木娘や花咲かせ爺。

と、辰巳屋の店を開きしは安永三年の夏にて、表町大黒天の祭ふる頃なりとか、その住宅は鬼門に  
あたりしも、同人栖みし後は、却てますく祭へたりといへり。

○藤井紋太夫墓 表町二十七番地昌林院にあり、紋太夫名は徳昭、字文昭、辯論絶倫にして

博聞強記なり、西山公小臣より抽で、執政となし玉ひしに、奸佞邪智の振舞多かりしを以て、元祿

七年十一月二十三日、小石川水戸侯邸に於て能の催ありたるとき、公は、紋太夫を一室に召し、手

づから一切に刺殺し玉ふ、賓客群臣毫も之を知るものなかりしといふ。墓碑には、光念院孤峯心了

居士、元祿七年甲戌十一月二十三日、と記入しあり。

○浅野内匠頭靈牌 墓碑にはあらねど、序にこゝに掲ぐ。小石川仲町十五番地西岸寺に安

置せらる。その表面には

浅野内匠頭位牌

梶川氏先祖代々一切精靈

元祿十四辛巳年

冷光院殿前少府朝散大夫吹毛玄利大居士

三月十四日

淺野内匠頭家臣四十六人等

と表し、裏面には

施主 櫛川與惣兵衛母

馨 川 院

と記す。櫛川與惣兵衛は、内匠頭を抱き止めて、吉良上野介を討つを得ざらしめたるものなれば、其後内匠頭切腹となり、次で四十六士の仇討となりたるより、かゝる慘事も、畢竟殿中にて内匠頭を抱き止め、本意を遂げざらしめし爲と、中心堪へがたきものありて、かくは、靈牌を祀りしものなるべし。

○源實朝追悼之碑

金富町十八番地金剛寺にあり、寺の由緒は、別項寺院の部に詳なり、

左に、同寺にある實朝追悼碑の文をかゝく

(正面) 中央に、金剛寺殿鎌倉右府將軍實朝公大禪門、と誓し、右に、當寺 承久元卯年。と記

し左に、開基 正月廿七日。と誓す。

(右面) 連日山金剛禪寺者、始波多野中務忠經爲鎌倉右府將軍實朝公菩提建長二庚戌年建之相州

波多野庄田原村江戸下野入道心佛移寺於武州江戸庄小日向郷金杉村、亦其後文明年中

(左面) 太田左衛門入道靜勝軒春苑道灌重興焉昔日者臨濟宗也其時之開山普應國師二代巨舟和尚

中興叔悅禪師永正六己巳年改普洞宗者也維時永正十癸酉年七月十日金剛現住比丘實山叟記之

右の左右兩面は、右面より左面へ讀みつゝくるものなり、又た珍らしき由來を示したるものと謂ふべし。

○岩瀬忠震の墓

指ヶ谷町蓮華寺にあり、忠震は鷗所と號し、徳川幕府の末年に當り、世に其名を知られたる武士なり。

○小川泰山の墓

竹早町智香寺にあり。泰山は名を俊成といひ、字は誠市、通稱を藤吉郎といふ。人となり博覽強記にして、弱冠にして一家をなし、神童と稱せらる。天明五年年僅に十七歳にして歿す。

○八百屋お七墓

指ヶ谷町圓乘寺内にあり、本堂の左方墓地に建てらる。お七は天和二年三月廿九日に刑死したるものにて、法名を妙榮といふ。



お七の實傳をたづぬるに、元和元年二月本郷丸山より出火したる時、駒込追分町なる八百屋某の店も類焼し、一家は圓乗寺の門前に移り住みしに、この寺に小性として仕へたる左兵衛といへる美少年ありて、八百屋の娘お七と人知れず契りそめたるに、間もなく八百屋某は、元の住地にかへりしかば、お七は且暮左兵衛を慕ひつゝありしを、その附近に吉三郎といへる悪徒あり、お七を煽動して放火せしめ、其騒ぎに盜賊をはたらかんと企てたるに、お七は、たゞ左兵衛に會ひたさの念にかられて、吉三郎のいふがまゝに放火の大罪を犯し、遂に火刑に處せられたるが、同時に吉三郎も捕へられて同刑に處せられたり。小性左兵衛は此をきつて大に嘆き悲しみ、遂に出家遁世してお七の菩提を弔ひ、後道心堅固の法師となり元文二年十月四日大往生を遂げたりといふ。院本には左兵衛を吉三郎として仕組みしものなり、お七が今日まで、其の身を殺すもとなりし仇の吉三と並びつたへらるゝは、靈あらば定めて遺憾に思ふなるべし。

○地黄坊樽次の墓 今ほ他に移轉したれども、嘗ては本區の一名物たりしを以て此處に紹介すべし。地黄坊樽次は、本名を茨木春朔といひ、儒醫なり、酒井侯に仕へて雞聲ヶ窪に住す。性を好み、自ら地黄坊樽次と號し、酒友甚だ多く、其の著水鳥記は、大師河原に於て酒豪池上太郎左衛門底深との酒戰を記したるものなり。樽次の本墓は、谷中妙林寺にあり、祥雲寺にありしは酒

門高弟菅任口の建造したるものなり、任口は本名和泉屋佐助といひ、又酒戰の勇士たり。墓石は正面に不動尊を刻み、右に、酒徳院醉翁樽次居士、と刻し左に、辭世の狂歌二首を刻す。

みな人の道こそかはれしでの山うちこえ見ればおなじふもと路。  
南無三寶あまたの樽をのみほして身はあき樽とかへるふるさと。

因に曰く、本寺には、徳川家康の女遠州木寺定姫の墓、及び幕府以來の有名なる削手山田淺右衛門の墓もありたれども、移轉と共に、今や本區にはなし。

○服部嵐雪の墓 白山前町常驗寺にあり、嵐雪は蕉門十哲の一人にして雪門の祖なり。その温健なる句調は、其角の豪放と對して、江戸俳僧に光輝を放ちたり、寛永四年十月十三日歿す、年五十四。小石川志料に曰く

雪中庵嵐雪の墓 本堂に向て右、柳樹の下にあり、同く並びに左の碑あり、嵐雪の配にてもありや。

雪山院淨白妙 女 元祿十三年己卯九月三日

○堀織部正の墓 初音町源覺寺境内にあり、織部正名は利熙、字は欽文、又は士績といひ、有梅又は梅花山人と號す。伊豆守利堅の子にして、世々幕府に仕ふ。從五位下に叙せられ、織部正

と稱す。時恰も、外交多事の時に際し、外國奉行となりて拮据努力せしが、事志と違ひ、萬延元年十一月五日切腹して死す。

○林子平一族墓 小日向水道端町二丁目日輪寺にあり。其背の丘は墓地にて、林從吾等及其一門の墓あり。又本寺の過去帳には子平の名あり、戒名六無齋友直居士、累代の菩提所は本寺なりといふ。子平の墓は、仙臺市龍雲院にあり、始め幕府これをたつることを許さず、之について蒲生君平の上書あり、明治の聖世にいたりて特に從五位を贈りたまひしは皆人の知るところなり。

○清新九郎繁村の墓 大塚仲町本傳寺にあり。繁村は處士にて信州の人なり、江戸に來りて小日向加々爪藤人の宅地内に住す。天淵流の槍術をよくし、又た筒井流の居合に巧なり。軍學は甲州流の奥義を極め、門人多く武器も多く貯へたり。歿後これを門弟に分ち、槍術は石渡四郎三郎といへる門下に直傳したりといふ。

○小野小町の碑 戸崎町無量院にあり、府内備考によれば、元祿年中に旗下の士妻木彦右衛門なるもの、奈良に奉行たりし時、その地にありし小町塚を、密に持歸りしものなりとのことなり信偽は詳ならず。

○山莊之碑、朝妻櫻 切支丹屋敷の廢止せらるゝや、其の地を賜りし毛利讃岐守政時は、そ

の遺跡に碑を建立したり、之を「山莊之碑」と稱し、俗に「朝妻櫻の碑」といふ、其の文に曰く

此地當寛永年間、爲切支丹奉行筑後守井上政重別邸、南蠻國伴天連我國稱岡本三右衛門、故有牢獄焉、後納其地於官、稱山屋舖或直稱切支丹邸、寶永中、羅馬伴天連與安及其徒長助夫妻、亦入此獄、皆長繫死、其他奉妖及雜犯、亦病死、住々埋於此、有姦朝妻、罪當死、指獄邊櫻樹、謂獄吏曰、得及花時死無恨、官憐之、待花開而刑、後呼其樹爲朝妻櫻、今近隣或存其遺種云、既邪教殄滅、獄從廢、文化癸酉十二月、易地賜之、爲讚岐守大江政時君別邸、君以爲、犯法雖可罪、愚昧承死、亦可傷、而屬余記其事、因錄頗末如此。

文化乙亥五月間寛士信選

吉田儀書

この碑今は目白蓮華寺境内に移されて現存せり。

以上の地に、本区内にて世に知られたる名士の墓は、左の如し。

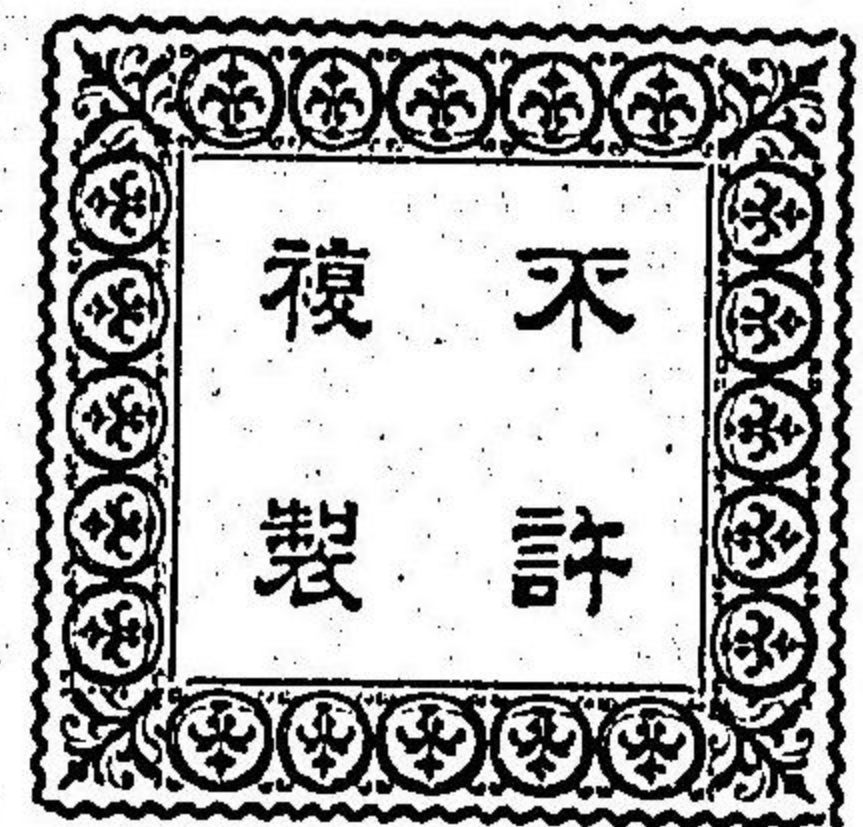
- 北川真顔の墓 久堅町光圓寺
- 二代馬馬の墓 白山御殿町大雲寺
- 片岡寛光の墓 雞聲ヶ窪蓮久寺

○屋代弘賢の墓 白山前町妙清寺  
○箕作阮市の墓 同 淨心寺

礫川要覽終

明治四十三年十月二十日印刷  
明治四十三年十月廿三日發行

正價金七十錢



編纂者 小石川新聞社代表者 糸居銀一郎

印刷者 東京市小石川區久堅町百〇八番地 水谷景長

印刷所 東京市小石川區音羽町七丁目七番地 博文館印刷所

發行所

小石川新聞社

東京市小石川區音羽町七丁目七番地

品料食洋西肉鳥羊豚牛

西川牛肉部本店

小石川區表町十八番地

電話番町六五九番  
電話番町二六〇九番

西川洋食部

小石川區表町五十四番地

電話番町一五九四番

西川米穀部

小石川區表町二十二番地

西川牛肉部支店

牛込區細工町二番地

電話番町一二二四番

西川牛肉部支店

本郷區東片町五番地

電話下谷三二七一番

西川牛肉部支店

赤坂區青山北町五丁目十一番地

◎内科 外科 來

每日 午前中 專門 醫士  
午後(五時迄) 丹羽、中尾 兩醫學士交代

◎耳鼻咽喉科 外科 來

每日 自午前八時 醫士  
至午後六時 醫學士(專門家)擔任  
但シ祭日ハ休診ノ

◎入院往診隨時應需

東京市小石川區大塚仲町十八、十九番地

小石川病院

電話番号 二、九、九、七、番  
二、七、九、八、番



品質精良

價格低廉

弊店にて御用御願申上候  
室内裝飾品は高尙優美に  
加ふるに實用經濟向を主  
として精々吟味致居候。尙  
又和洋毛織物、シヨール等  
流行におくれず新柄新形  
等種々取揃居候間御用命  
の程偏に奉希上候 敬白



東京市小石川區大門町廿五番地(安藤坂上)

電話 加距離 (番町) 四百九十八番

株式 尾張屋銀行 小石川支店

東京市小石川區小石川支金庫  
東京市小石川區派出市金庫

取締役支店長 笠木吉兵衛

### 營業課目

- 一 定期預金
- 一 當座預金
- 一 特別當座預金
- 一 貯蓄預金
- 一 貸附金、當座貸越、手形割引

右の外送金代金取立等銀行一般の業務確實可嗜迅速を旨とし營業仕り候

### ○當支店爲替取組先

攝津	大阪	山城	京都	尾張	名古屋	遠江	濱松
駿河	靜岡	甲斐	甲府	武藏	橫濱	武藏	八王子
武藏	荊州	武藏	忍	武藏	浦和	武藏	吹上
武藏	鴻巣	武藏	熊谷	相模	平塚	相模	大磯
相模	藤澤	相模	鎌倉	相模	小田原	相模	逗子
相模	橫須賀	相模	葉山	上野	前橋	上野	高崎
上野	館林	下野	宇都宮	下野	足利	下野	栃木
下野	鹿沼	常陸	下館	常陸	石下	常陸	水海道
常陸	真壁	下總	境	加賀	金澤	越前	福井
越前	鯖江	長門	萩	伊勢	桑名		

### ○日本勸業銀行

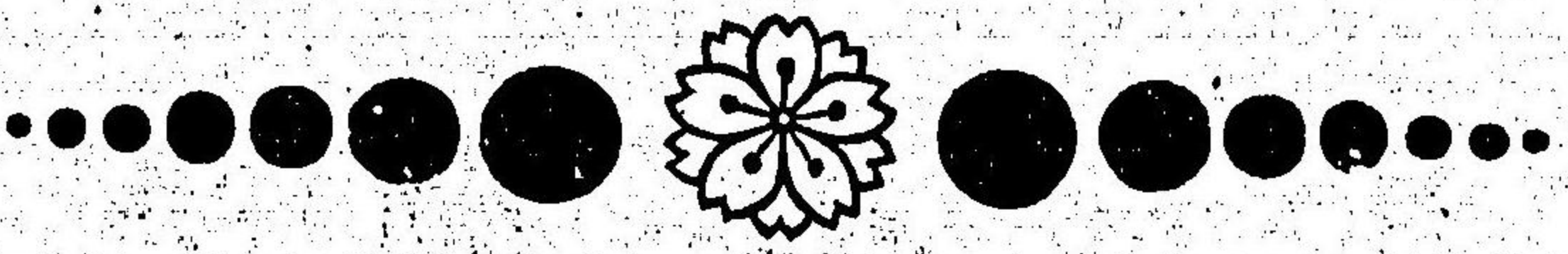
當店に同行代理店に付き債券の申込償還、利札、配當仕拂等總て取扱申候

吳服太物斬新珍柄取揃有之候  
御羽織紐御帶止類販賣可仕候

# 倉 尾張屋吳服店

各種陳列品適宜御縦覽御隨意  
其他よせ切見切反物取揃置候

電話番 小石川區安藤坂上  
番四二町番



株式會社  
日本貯蓄銀行

# 飯田町支店

## 支店長 瀧口正兵衛

麴町區飯田町五丁目十番地  
電話番 二二三九一  
振替口座 一三二九六

### 警視廳 御賞讚

三井家消防長  
既許火災報知器

特許出火報知器

最新式盜難豫防器

電氣諸器械製作及修繕

呼鈴新設及修繕

八燭電料にて廿五燭光放  
たしむるオスラム電球

諸電球及瓦斯マントル類

小石川親籠町十七番地

## 田中屋電氣部

純

## 牛乳搾取所

▲陸軍病院御用  
篠田病院御用  
狩野病院御用

# 石渡牧場

小石川原町百〇九番地  
電話番町二六八九番

無

菌

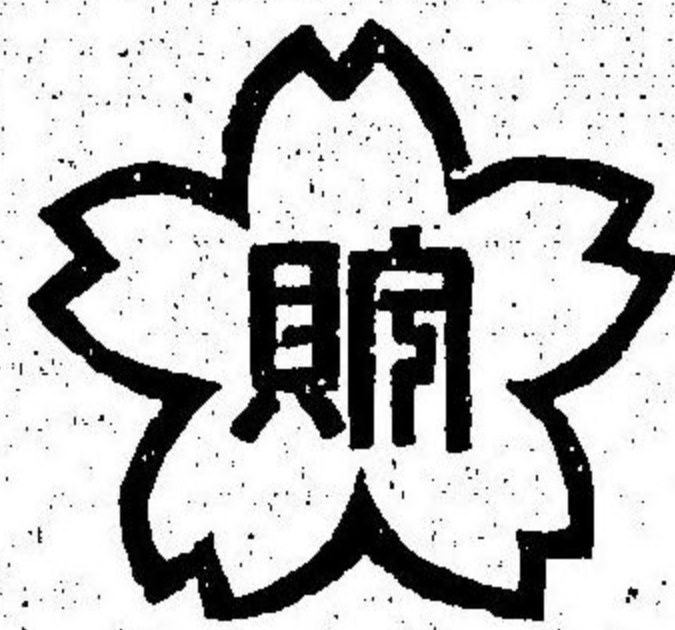
良

健康なる精神は健康なる身體に宿るものなり。  
 身體の健康は精良純粹なる牛乳の賜なり弊  
 舎は經驗と研究とを經とし勤勉と誠實とを  
 緯として最も理想的の良牛乳を供給す

赤十字社病院其他各病院御用  
 純血ゼルシー種搾乳所

# 氷川興眞舎

電話番町二三九一番



# 株式會社 本郷貯藏銀行

東京市小石川區柳町二十四番地

取取取 取取取  
 締締締 役役役  
 田吉島 田吉島 田吉島  
 村仁吉 村仁吉 村仁吉  
 中由太 中由太 中由太  
 平三衛 平三衛 平三衛  
 監配人 田島 借次  
 監查役 小野木 啓助  
 監心役 平林重右衛門

當銀行は金拾錢以上何程にてもお預り申候  
 御預け入御引出とも輕便に御取扱可申上候

當會社の保險料は低廉にして保險金の支拂は迅速に御座候  
 電話又は「はがき」にて御申込被下候は、直ちに社員參上御契約可申候

本郷貯藏銀行内（電話番町九二〇番）

## 神戸海上運送火災保險株式會社

小石川代理店



圓萬百五金本資



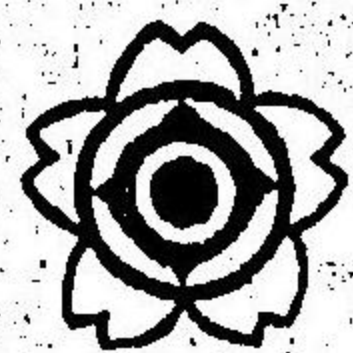
東 京 勸 業 博 覽 會 に 於 て 受 領 等 賞 牌

- 一 最新流行形 帽子 内外製 各種
- 一 季節向 メリヤス 雜貨
- 一 流行マフラー 絹ハンカチーフ
- 一 肩掛襟卷類
- 一 洋品 雜貨
- 一 袋物 化粧品
- 一 新形 羽織紐帶締
- 一 組糸一式

弊店は何品に限らず時々季節  
向の斬新流行品を取揃へ最も  
良品を選び確實廉價を以て貴  
命に相應じ申すべく候間何卒  
多少に不拘御用向被仰付度伏  
而奉願上候

小石川區傳通院前表町

倉田屋洋品店



株式會社

春日銀行

本店

東京市小石川區柳町

(電話番町) 一八九七番

派出所

小石川區白山御殿町

(電話番町) 一八八三番

頭取 水野 升



—(部内場工旋螺本山)—

REGISTERED

標商 標註冊 商標

TRADE MARK

**YAMAMOTO BRASS SCREW WORKS**

**所造製銀旋螺本山**

番二十四百町番話電長



東京市小石川區駕籠町拾壹番地

株式會社 **國民銀行小石川支店**

電話番町一三五二番  
振替貯金口座一五〇三三番

取締役支店長 **大澤彥右衛門**

營業科目

- 定期預金
- 當座預金
- 特種當座預金
- 貯蓄預金
- 手形割引
- 貸附金

右の外銀行一般の業務は至極御便利に御取扱ひ可申候

内科一般 呼吸器病 專門治療

氣管支病 肺病 其他

小石川區久堅町四十四番地

# 吉田醫院

院長 Dr. med. 吉田榮次郎

診察 每日午前午後入院應需

# 鳥御料理

四季折々の御好みに應じて  
種々の御料理調進可仕候間  
何卒御贖引立被成下度  
候

小石川區柳町二十二番地

# 柳川

電話番町二二七番

尚御進物用切手調進仕候

登 録



商 標

東京市小石川區小日向町廿四番地

## 本社 江戸川製紙合資會社

電話番町二七〇番(電信路號エトカワ)

製品目錄

半紙、美濃紙、印刷用紙、鳥の子紙、書簡用紙、袋類、漉入れ諸紙、辭令用紙、株券用紙、諸切符用紙、其他文字紋形漉入れ及變形の物は如何様共御注文に應じ抄造可仕候又多敷御入用の場合は充分勉強廉價に差上可申候



營業目  
造花生花  
根付柵放鳥

葬儀社

小石川區柳町二十三大通り



杉澤商店

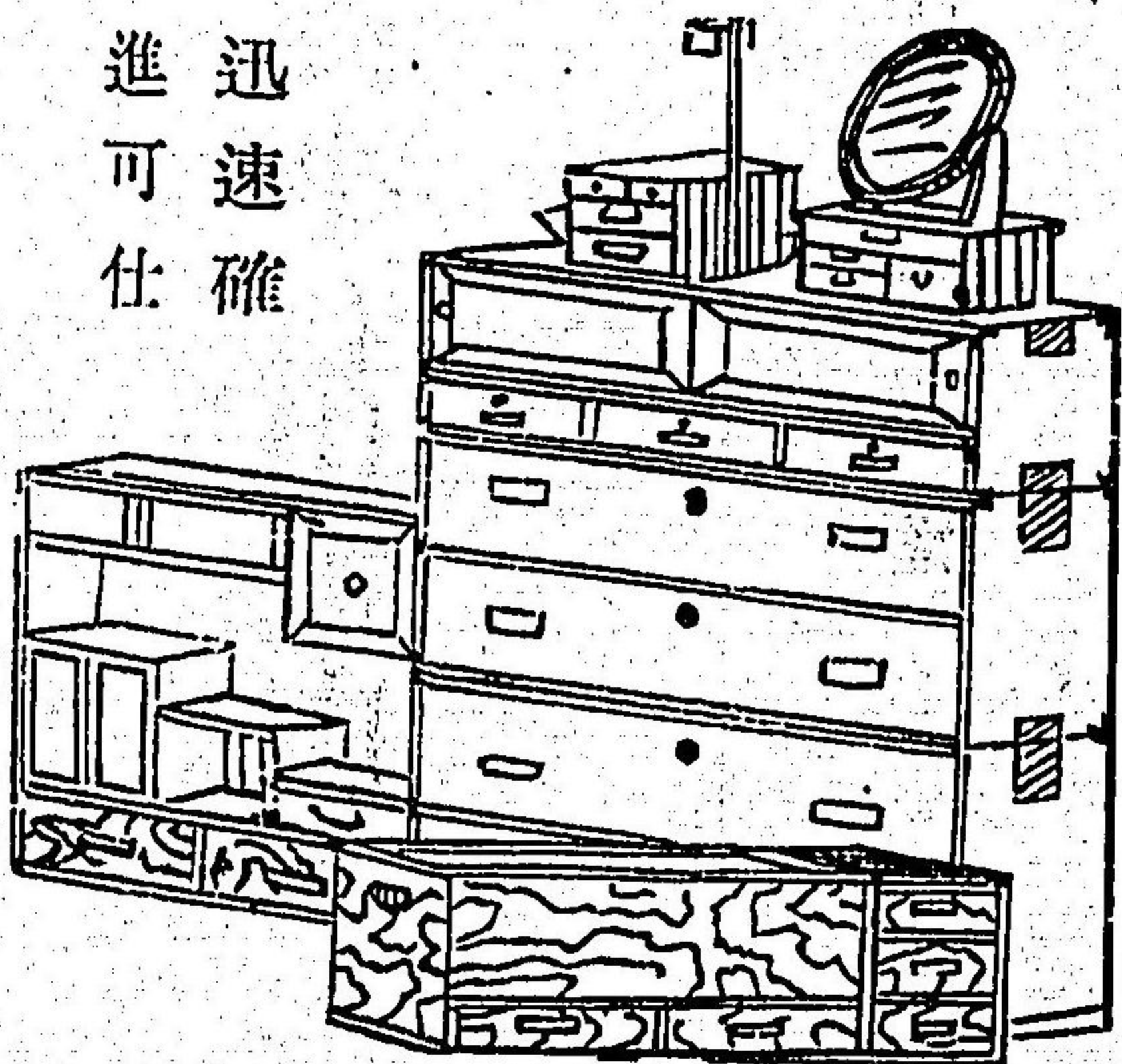
電話番町二二八六番

誠實周到を旨として營業可仕候

製造販賣品課目

簞笥、長持、鏡臺、針箱、其他  
御婚禮道具一式  
火鉢、茶簞笥、机、本箱、食卓、  
テーブル、椅子

其他家具一式製造及販賣と  
も營業致候  
特に御注文品は御好み次第迅速確  
實を旨とし大勉強を以て調進可仕  
候



小石川區表町四番地(小石川警察署前)

長遠藤 簞笥物店

店主 指物師 遠藤長吉

小石川區小日向水道町六十一番地

株式會社  
興業貯蓄銀行小石川支店

電話番町千二百六十九番

和洋紙問屋

◎御襖紙類諸帳簿 内外文房具類  
其他小間物紙類一式

小石川區小日向水道町

喜多川商店

電話番町七百九十五番

◎尙ほ斬新優美なる御進物品  
種々取揃へ有之候

株式會社 木場銀行  
小石川支店

小石川向日水道町五十三番地  
電話番 一 二 一 三

米穀問屋

三河屋號  
野中兼吉  
小石川春日町廿九番地

靴製造  
靴製造

武藏屋號

岡部清三郎

小石川區柳町二十九番地

酒類薪炭  
販賣

會

伊勢屋號

中村豐吉

小石川區春日町二十九番地

福 井 洋 行

和洋御菓子  
調進所

小石川關口水道町（江戸川電車終點）  
（電話番町二一四七番）  
高田四家町三七八  
小石川區豊川町  
本所區吉田町九  
牛込區改代町一七  
牛込區市ヶ谷谷町一

特に御祝儀並に御法要の御式物は一層注意仕  
候て高尙優美に御調進可申上候御用の節は郵  
便又は電話にて御注文被下候は迅速配達可申上候  
近及御用品の多少に拘らず

福井家本店  
福井家分店  
福井家支店  
福井家支店  
福井家支店  
福井家支店

新 新  
流 行

自製洋傘洋服附屬品一式  
流行帽子メリヤス類一式

福井洋行

頑 固  
正 札

本店 小日向水道町六八  
支店 關口水道町一四

和洋家具 製造及  
諸建具類 卸小賣  
指物一式

小石川區柳町二十二番地

# 西商店

電話番町二二八四番

確 實 勉 強

內外諸材木商

# 西商店

小石川區表町九十九番地

銘茶 鯉節  
鶏卵問屋

小石川區傳通院前表町(電車停留場前)  
東京砲兵工廠共同購買會特約店

分

山 本 本 店

海苔 砂糖

商標

電話番町二千六百三十一番  
電信寄號(ヤマカ)又は(ヤマモ)

產出新鮮確實鶏卵專賣  
各病院學校特約店

豐多摩郡千駄ヶ谷

山 本 養 鶏 場

內外食料品

小石川區傳通院前表町

山 本 罐 詰 部

小石川區表町二十八番地

山 本 和 洋 菓 子 部



衛生家庭用

登録商標

ウキワ石鹼



全國到處の化粧品店にあり

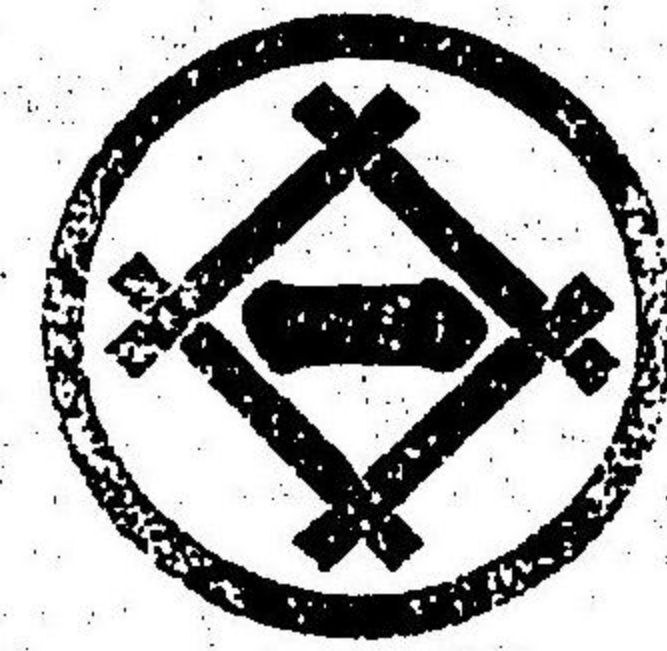
東洋浮石鹼の元祖

製造元

東京

安永舍

勤勉



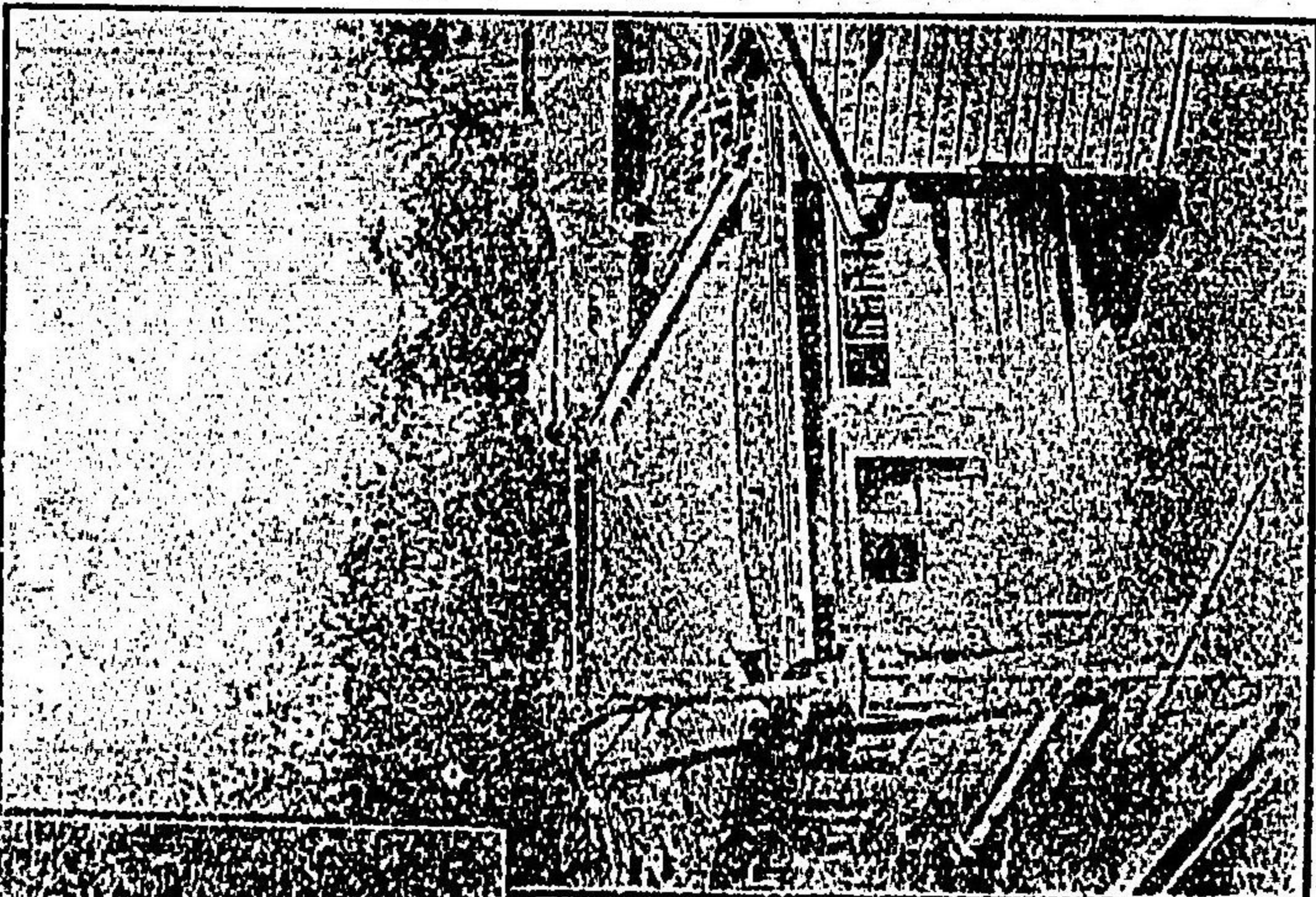
和洋  
清酒

西川萬吉

東京市小石川區久堅町  
壹番地

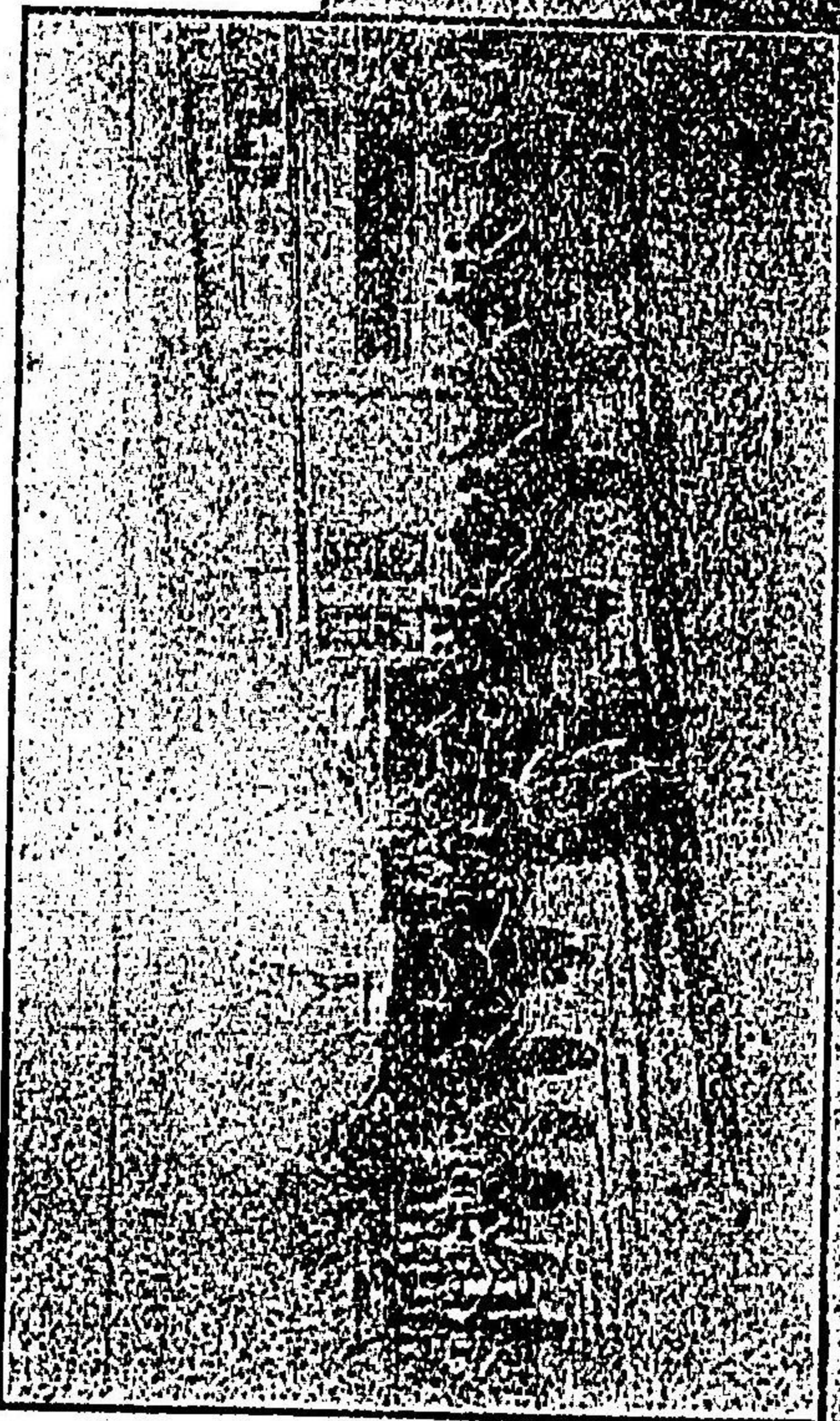
品質

正直



工 場 全 景

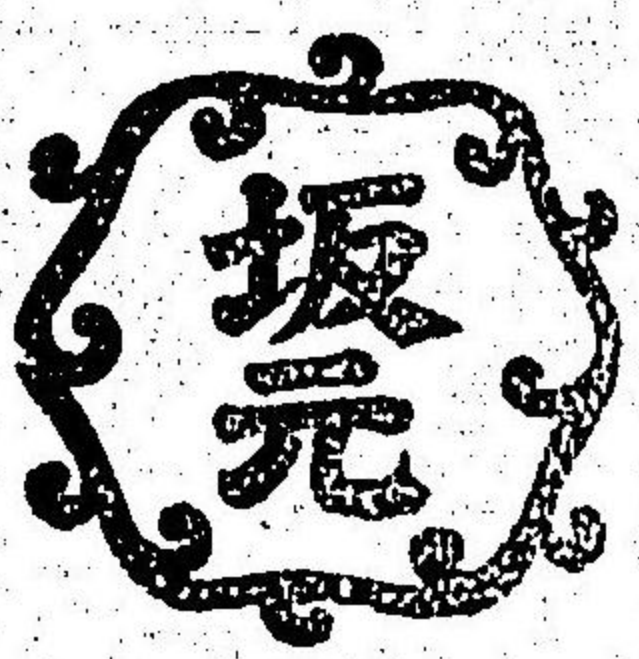
附 屬 試 験 所



女 子 遊 戯



營 業 種 目 造 花 生 花 根 付 柳 放 鳥 其 他



神 佛 葬 儀 社

宇 の 丸 屋

坂 元 商 店

小 石 川 區 指 ヶ 谷 町 一 二 五 (電 車 白 山 停 留 所 前)

銘酒愛盛印東京販賣所

田口酒店

小石川區諏訪町五番地

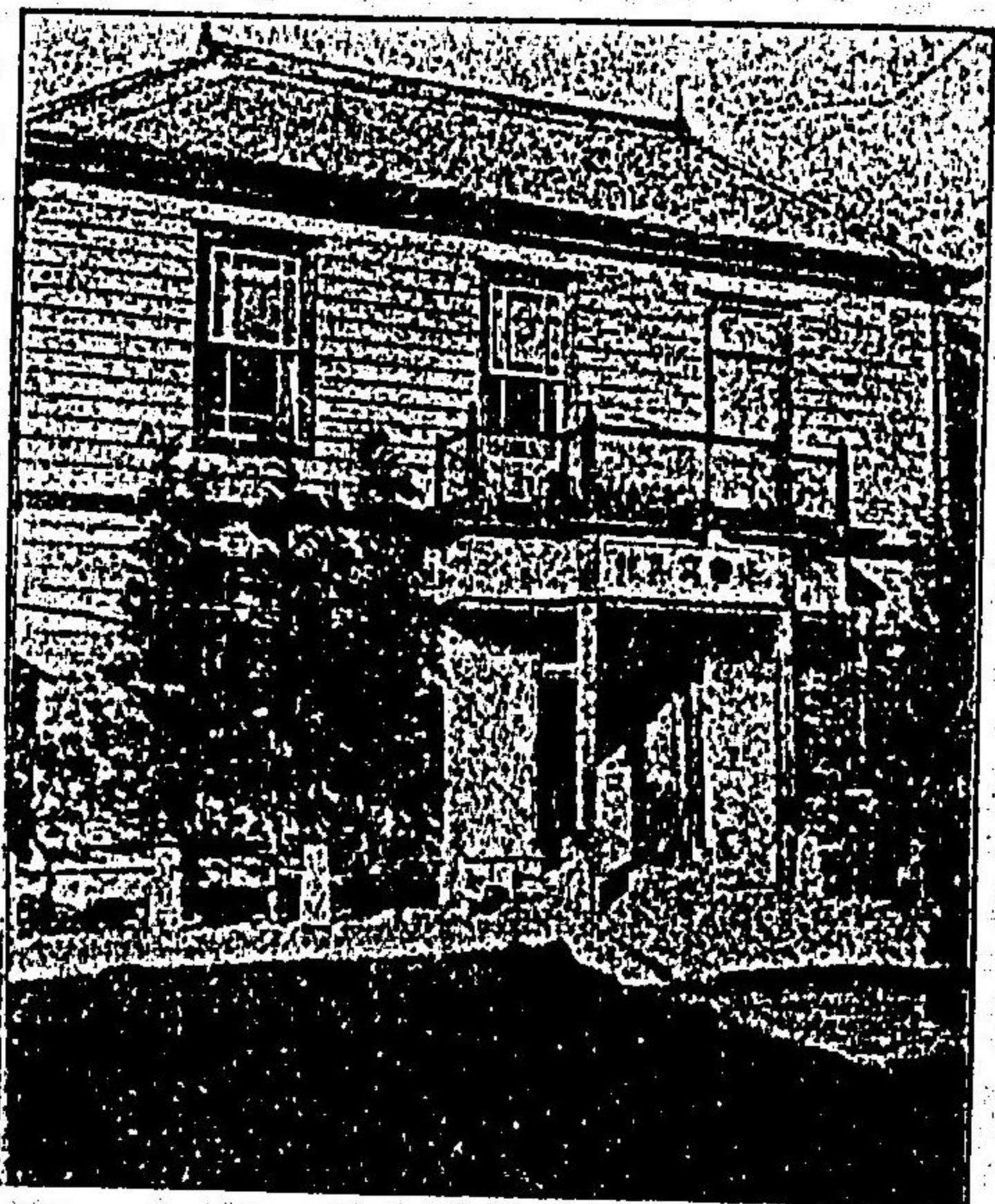
商標有權



攝州灘

田口本店

電話神戸三〇八七番



梅田寫眞館

小石川區武島町二十一番地

梅田寫眞館

梅田靜吉

日本御料理  
西洋御料理  
御蒲燒

出前は御注文に應  
じて迅速且精々勉  
強可仕候

御婚禮其他の御儀式御料理は特に注意調理可仕候

東京市小石川區掃除町四十七番地  
(指ヶ谷町電車停留場前)

の 祿 万

電話番町二五二四番



營業種目

大人部 吳服太物品々  
絹シヨール類

小兒部 小兒衣類帽子袴  
玩具類及諸雜貨

小石川傳通院前通

こどもや

和洋御菓子  
干蒸御菓子

●折詰御祝儀用並に御法事  
川式菓子等勉強調進可仕  
候

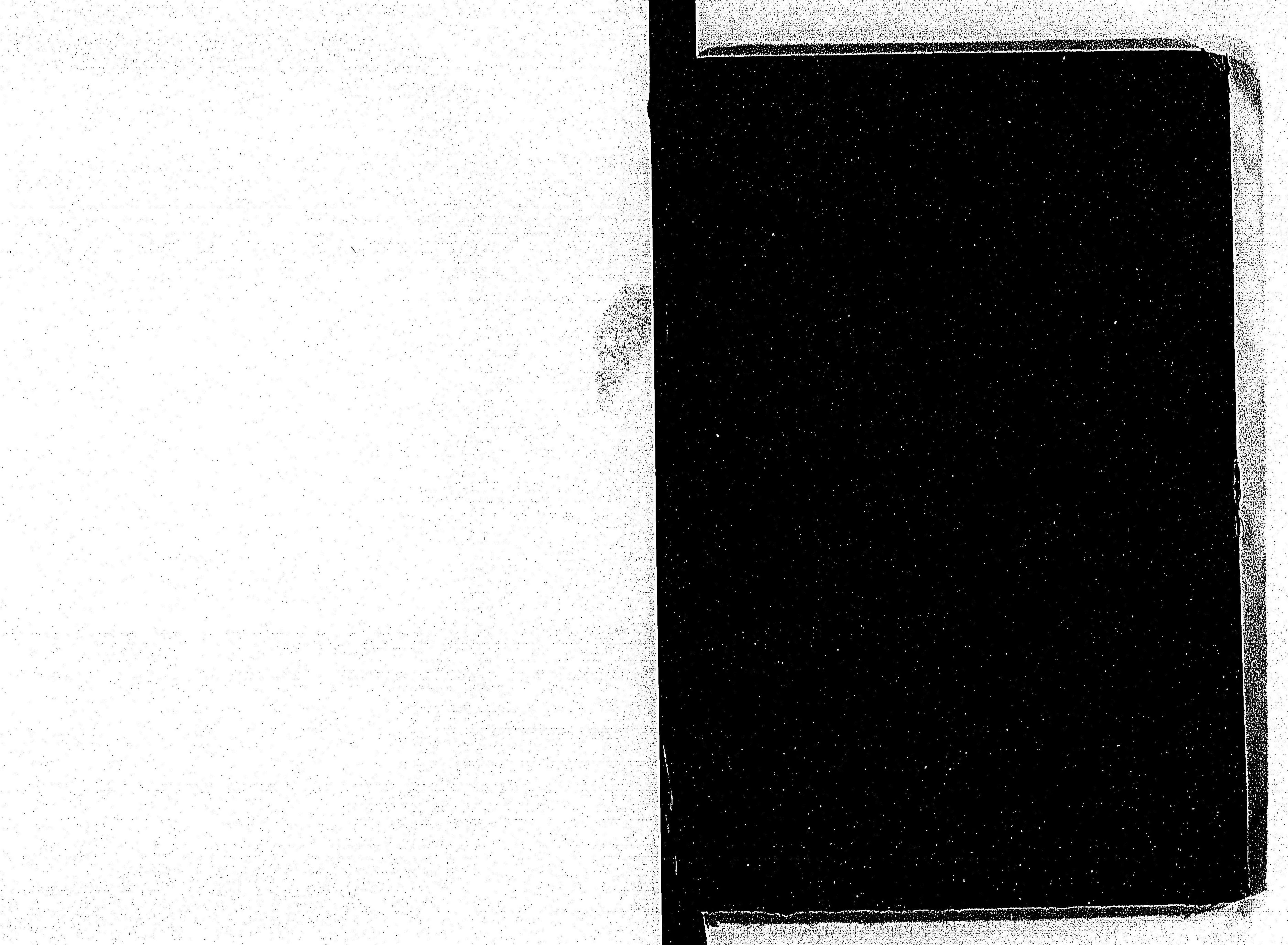
小石川區小日向水道町十二

桔梗家和泉

電話番十二三二番

327  
349

327  
349





024379-000-3

327-349

礫川要覽

小石川新聞社

M43

ADC-1558

